

時空の漂泊

(二〇〇四年十二月二十七日 第五号)

谷 弘一

供養走馬燈

まさに針小棒大な漂泊をやろうと、針供養されることになった針の先に乗って、お仲間の、お弔いになった産業が群がる森をフワフワすることにした。ところが、すっかり指帰趨の世界(キーボードを叩く世界)に耽溺し、気が付いたら紙幅も一杯になっていた。今回の漂泊は、取りあえず訪れる人の少ない産業墓地の脇のベンチで終わるが、ご容赦願いたい。

針供養という行事を行う社寺がある。二月八日の事始めの日と、十二月八日の事納めの日に合わせて針供養をすらし。縫い針は仕事の象徴の一つだったよ

うだ。皇室から頼まれて針供養を行った寺もあるそうだ。

もつとも自分自身は、そんな寺や神社の側を通って、散歩の途中で足を止めて中に入って柏手を打ったり、賽銭箱の中を何の気なしに覗いたりはそののせいで、偶々、この由緒ある日にぶつかったことはない。だからと言うか、だけどと



言うか、針供養の現場を一度も見たこともないまま、針供養という言葉が浮かんでくるとなんだか気持ちが悪くなって、和むようになる。

豆腐や蒟蒻に、針を刺して供養すると聞いた途端に、針はとても気持ち良いだろうかと、いつも針をうらやましく思っている。それから一呼吸置いて、豆腐や蒟蒻の身になって見て、痛いだろうかと同情もしている。針も豆腐も蒟蒻も生き物ではないから痛がったりはしない。妙な感情移入だと一笑に付されるのが落ちだろう。

でも、こうして文章を指で綴っている(キーボードを叩いている)と、人様の反応など一顧だにせず、脳内漂泊を始めることが出来る。縫い針の尖った先にひ

らり飛び乗り、それから一気にプロポヨとした豆腐に飛び込み、しばし広々した豆腐風呂に浸かって垢を落とし、ちよつと締まった豆腐プールで立ち歩きして身を鍛えたりもできる。蒟蒻も、その弾力性を想像するだけで魅力的である。

辞典を拡張すると、縫い物が上手になるようにという願いを込めて、針供養をするとあった。これはまた随分と下卑たことをするものだと、ちよつと憤慨したくなった。

何で、針供養に縫いものが上手になるという効用をくつつける必要があるのだろうか。たかが針供養に、縫いものが巧くなるようにしてくれと功德を上乗せする必要があるのだろうか。針にそんな神通力があるわけではない。

さんざん先の尖った所ばかりをごしごしと使い込まれ、折れたり曲がったりして使いものにならなくなって捨てられる直前に、豆腐や蒟蒻に刺して貰ったくらいで、人の裁縫の腕前を上げてやろうと痩せ衰えた針が思うだろうか。そんな義理はない。御役御免になって、ずうつと豆腐や蒟蒻の中に居させてくれるならまだしも、御被いが済んだら直ぐに捨てられるのだから神通力など用意する暇もないだろう。

新品の針なら、なお更だろう。一寸だけ良い思いをさせて貰って、後はずっとごしごし使い込まれて、針の恨みが高じるだけではないか。

いつも固いモノばかりを刺して、疲れ切った縫い針という道具をそのまま見捨

てるには忍びなく、針供養というお巾着を始めたのだと私は思っている。お払い箱にする前、それはそれは柔らかな豆腐や蒟蒻に刺し、一時でも極楽を味合わせあげた上で、捨てるのだろうと、単純に言うか、素直に針供養の意図に思いを馳せるようになっていく。



針は一本一本手作りで、勿論、ミシンなどない時代がかなり続いた。

私も戦後の一時期、切れた電球に破れた靴下を被せて、針と糸で繕いをしたことがある。靴下の繕いには、電球と運針が一番で、ミシンが使えなかったからだと思います。縫い針と糸で繕った靴下を履いていた時代があったのである。

当時、ミシンは大変に高級で高価だった。母親がジャガーとか言ったと思うけれど、英国のミシンの名前を誇らしげに唱えていたのを覚えている。

針が大量に作れるようになったのは、明治維新で海外の進んだ技術が浮塵子のごとく入ってきた後、暫く経つてのことだろう。少なくともマッチ製造の国産化

よりはずっと遅れたと思うのだが如何なものだろう。

針の量産されなかった長い時代、針供養にはかなりの思い入れがあっただろうと思ひ直した。縫いものが上手になれるようにと自然に願を掛ける気持ちになったのだろう。最初は下卑た根性だと思っただけで、行灯の明かりの下での繕いも、そして指にした手作りの縫い針という組み合わせの日夜を思ひ描くと、針供養は万感の思いを託したものだだったのだと思う。肩凝りと眼精疲労の日々を恨むよりは、明日へ向かって、縫い針に運針の上達を願う方がずっと健康的だったと思えてくる。

針供養が始まった時代は、豆腐も蒟蒻も、現在とは比べものにならないくらい

貴重な副食品だったに違いない。原料を作ることも入手することも、それを加工することも、そして売ることに、とにかく手間暇が掛かったはずだ。

蒟蒻の担ぎ売りは聞いたことがないけれど、豆腐や納豆や鮮魚などを入れた桶をぶら下げた天秤棒を担ぎ、今となれば独特の売り声で売り歩いて、一家の生計が成り立った時代のことである。



その貴重な豆腐や蒟蒻に刺して、縫い針の冥福を祈る弔意というか、縫い針に

手向ける哀惜の情が伝わってくる。少しでも楽に縫い物が出来るようになりたいと願う心も伝わってくる。

一本一本、手作りだった縫い針も、今では工業生産に移行し、途上国でも量産されるようになっていだろう。まだ和裁で執拗に縫い針が使われているけれど、もう日本では手で針と糸を使って繕いするということ自体が希なものになっていく。縫い針を持つことさえも希になっている。

そもそも大量生産された針では哀惜の情も浮かんではこない。量産されると、同じ縫い針でも大切に作る気持ちが失われるような気がする。粗末にしてはいけないという気遣いさえも、もはや消えているのかもしれない。



通りすがりに、家屋が取り壊されている現場に出会うことがある。それが木造だと、壊れ掛けた壁や柱や根太の隙間から、大工さん達の鑿や鉋、鋸や指物の曲尺が唸ったり、呻吟したりしているのが聞こえてくる気がする。大工さん達の声も混ざっている。そこに住んでいた人たちの生活の声も漏れて来て、思わず頭を垂れることもある。これが、鉄筋や鉄骨コンクリート造りだと、そうした哀悼の情は浮かんでこない。

少し乱暴な飛躍だけれど、工業化が進むとモノを大切に思う心がどんどん消えて行くようだ。

利用者や消費者は勿論、工業生産を担当する、経済学で言う供給サイドにも製品やサービスを粗略に使わないで欲しい、大切に使って欲しいという生の期待はゼ口のようなものである。

火事になったり、怪我したりしないように安全管理の規制に従って取り扱い説明書を用意し、使用者に注意を惹起し、問題があれば無償でリコールするということが生産者の義務にはなっているけれど、それはあくまでも需要を逃がさないため戦術、タクティックスの一環でしかないように思う。

当社では消費者が大切に使うと製品などの提供を心掛けていると躍起になって宣伝している生産者もいるけれど、これも需要を伸ばすための方便に過ぎない



いと思われてならない。

しかし、だからと言って、供給サイドの根性が曲がっているからモノを大切する心が失われて行くんだなどと、産業化と技術革新を続けてきた近代に対して、ドンキ・ホーテになって噛みつく訳でも、産業革命前の社会への回帰を懐かし

む訳でもない。その産物の製品など捨てる時には、針供養と同じことをしなければいけないなどと訓戒を垂れる気もない。こんな訓戒が通じるほど、現在の産業社会は柔な存在ではないことは十二分に承知している。

技術革新と工業化が進み、設備投資が拡大を続ける産業社会で、供給を拡大し消費を拡大する勢いに抗することは誰も出来ない。大分、以前に、歯磨き粉のテレビ・コマーシャルが溢れていた頃、歯ブラシにたつぷりと歯磨き材を載せた映像が盛んに流されていたのを、今でも鮮明に覚えている。

衣料品、玩具、食品、医療品のコマーシャルも、再軍備に関わるニュースも然りである。スイッチを入れると流れてく

る情報に人間は実に弱い。医療も薬を出るだけ沢山使わないと採算が合わないという時代である。物神礼賛の時代である。ここで、何とか、踏みとどまる術はないものだろうか。

産業連関表が物語っているのは、個別の産業が十重二十重に連携し、製品もサービスも供給されているという事実である。それも、一企業、一地域の生産が停止しても、競合する産業や地域から代替供給の手が伸び、供給のネットワークが、何事もなかったように壊れた部分を直ぐに修復する強靱な再生力をもっているという現代の仕組みである。益々、モノを大切にしている暇はなくなる。

だから、ここで、懐かしい逆転の発想に立ち返って、産業技術と技術革新を、

平成12年(2000年)産業連関表
生産者価格評価表

品別	01	02	03	04	05	06	07	08	09
1. 農産物	1264839	328	799187	57564	979693	98374	371	0	0
2. 畜産物	359	340	0	27	1592	8898	877617	679	0
3. 林産物	197033	0	848410	15087	2478	19713	80	0	0
4. 採掘物	47964	7729	43139	105488	2432	1758	8129	33	0
5. 化学工業製品	21997	8962	94296	6064	906979	41888	818	1712	0
6. 金属工業製品	64091	1282	94110	88811	49889	795298	3888	0	0
7. 非金属工業製品	16087	1980	11211	3509	11978	158277	8711	110	0
8. 繊維工業製品	2492	196	18335	4784	8471	18988	1970	0	0
9. 食品	1384	1921	0	189	15472	1182	0	0	0
10. 印刷品	0	324	4774	184	38128	18711	248	0	0
11. 石油製品	19172	25877	74721	15441	14627	27888	12487	75	0
12. 化学工業製品	274	880	12	0	2799	88	519	12	0
13. 金属工業製品	1757	892	478	172	2583	288	73	0	0
14. 非金属工業製品	309	25	114	82	924	817	11	0	0
15. 繊維工業製品	15041	1788	18314	37237	65312	86829	8488	214	0
16. 印刷品	8097	8978	7418	28279	8479	19413	2840	33	0
17. 石油製品	6184	9712	42396	8891	48883	158411	12213	110	0
18. 化学工業製品	3894	506	15239	2539	4846	18248	1188	48	0
19. 金属工業製品	69495	2128	89182	47077	10232	128412	15847	193	0
20. 非金属工業製品	15249	8828	38488	3114	10461	16461	1821	184	0
21. 繊維工業製品	8182	1185	7374	3328	8889	9735	1284	19	0
22. 印刷品	81822	8788	12473	18871	8788	8788	8847	110	0
23. 石油製品	1884	884	1884	1884	1884	1884	1884	1884	1884
24. 化学工業製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25. 金属工業製品	1380	2827	22828	4818	8882	231872	84873	178	0
26. 非金属工業製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27. 繊維工業製品	381	238	2381	7812	7124	8811	4816	3	0
28. 印刷品	18848	18114	25881	4818	18848	18848	11848	188	0
29. 石油製品	411	874	184	238	3872	884	884	0	0
30. 化学工業製品	888	1782	48114	1828	2818	18812	881	11	0
31. 金属工業製品	8112	2848	21838	7881	8181	18721	3881	88	0
32. 非金属工業製品	88481	22817	287723	442712	88481	181884	78482	478	0
33. 繊維工業製品	8788	888	3788	1872	2848	8788	8738	188	0
34. 印刷品	18848	28177	11884	18848	18848	28882	81882	188	0
35. 石油製品	487821	18811	48781	8828	8828	188474	17848	488	0
36. 化学工業製品	247821	12848	18848	28879	8182	18848	18184	818	0
37. 金属工業製品	72711	8811	61884	18184	68778	8782	48188	18	0
38. 非金属工業製品	17881	288	4812	488	812	888	1772	8	0
39. 繊維工業製品	38784	8881	18818	18848	8881	8881	18848	3887	0
40. 印刷品	148888	17882	282812	78888	148188	281848	128887	2888	0
41. 石油製品	18418	48472	81778	28781	88781	81881	41888	2818	0
42. 化学工業製品	28788	88782	14788	88828	81782	71887	81878	288	0

とことん骨の髄まで愛したらどうだろうかとと思う。

まずは、産業革新の途上で挫折したり、思いも寄らない被害が露呈したりして、社会から糾弾され葬られていった多くの人々を盛大に供養することである。「必要は発明の母」と言うけれど、私は敢えて「失敗は発目の父」あるいは「失敗こそ発明と革新の苗床」という言葉を提示したい。成功した人間や事業だけが顕彰

されるところに、市場の自由競争に委ねられた近代産業社会の偏向の原点が露呈しているのではないだろうか。

まずは産業技術の効用に深甚の感謝を捧げることである。その効用が産業連関のネットワークの中から生み出されていることに思いを馳せ、感謝を満遍なく広げてみることである。産業革新を背負い、リスクを賭して新規の製品やサービスの企業化を進めて来た世界中の無慮何百万という人々に感謝を捧げることである。「産業革新こそ、社会革新の原動力であり、産業の功徳の源泉である」という愛の標語を定着させる社会運動を起すことである。

私は昨年、年明け、血糖値が五百を超える高血糖症状が発覚し、即日入院した。この時、暇に明かしてインシュリンの発見と製品化に至る苦難の歴史を書いた本を読み、「百年前だったら死んでいたな。いや、八十年前でも死んでいたかも知れない」と自覚した。高血糖症から全快し、暫くはインシュリンを発見した人、それを安定した薬剤に製品化した企業に感謝の気持ち湧き上がった。

しかし、この気持ちを形にする術がないまま、日は過ぎて来てしまった。それもあって改めて思う。こうした生の気持ちを形にして継承して行くために、「産業供養」を盛大に鳴り物入りで行なつたらどうだろうかと思う。

「失敗こそ発明と革新の苗床」であるという覚悟と併せて、産業供養を行なつ

たら良い。

供養する段になれば、成功した方々を
持て囃す前に、「失敗こそ発明と革新の
苗床」である。失敗した方々や、挫折し
た方々を先ず弔うことから始めるのが良
い。企業単位にしないで、経営者も個々
人として顕彰するのである。

ちなみに、お金の貸借に金利がつくのは、私は、この失敗のリスク・ヘッジだ
と
思っている。

経済では一つの財について、一組の受
給曲線が確信を持って描かれて、価格と
量の変動して受給は必ず一致点があるこ
とになっている。ところが、現実の世界
では、そんなお誂え向きの2次平面はな
い。需要と供給が出会い求め、まさに時
空を彷徨っているのが現実である。かの
大発明王エジソンが発送電会社を興そう

と思いついた時に、彼の頭にあつたのは、
ガス灯に代えて電灯をつけ、お化けと犯
罪を駆除して明るい夜を生み出すことだ
つたと言う。電力網にモータがぶら下が
り、河川を離れて巨大な産業群が立地す
ることは全く考えていなかったらしい。

技術革新と、縦横に走り、益々こみ入
つていく産業連関の網の目は、時空を
彷徨いながら受給曲線を結び付ける。無
数の人々の営業活動の賜である。成功と
失敗は紙一重の世界で、誰もが企業経営
に鎬を削っている。そして、ここに産業

社会の功德と害悪の源泉が潜んでいそう
な気がする。

だからこそ、全ての人々の失敗も取り
込んで「失敗は市場革新の苗床である」
ということを、誰もが肝に銘ずるべきで

ある。私も自分で、初めて「べきである」
という言葉を使った。

技術革新が思いも寄らない代替製品を
続々と生みだしている現代、針供養なん
かしている暇があつたら、より安く、よ
り使い勝手の良い新製品や代替製品の開
発に励んだ方がずっと現実的なのかもし
れない。だが、「急そがば回れ」のイロ
ハ歌留多のご挨拶を差し上げて、新年を
言祝ぐことに致しましょう。

(壺宙計画)